

【授業科目】治療学Ⅲ（骨格筋・脳神経）

Therapeutics III (Skeletal muscle, Neurology)

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
病院医師	2年次前期	必修	2	30	講義	あり		可
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	授業概要/機能障害による生活への影響、人生観・価値観・生活習慣などを含めた個人の生き方への影響を考えるために必要な基礎知識として、運動機能、脳神経機能、感覚機能などに関連する代表的な疾病の成り立ち、病態生理、治療、回復過程を解説する。 講義形式で、教科書を使用しながら適宜プリントを配布して行う。 課題に対するフィードバック方法/事前学習および事後学習により生じた疑問等について授業時間内に受け付け、公開にて対応する。 *実務経験を持つ教員が授業を進める。							
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー②「人間の健康を環境との関係において捉え、地域社会の生活者の視点から看護の役割を考え、実践することができる」の達成に寄与している。							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	①運動機能、脳神経機能が障害される疾病の病態生理、検査、予後、治療の実際について説明できる。 ②感覚機能、免疫機能が障害される疾病の病態生理、検査、予後、治療の実際について説明できる。 ③麻酔の目的とその種類・作用と、疼痛コントロールについて述べるができる。 ④運動・脳神経・感覚・免疫機能の障害による生活への影響を考え、看護の学習につなげることができる。							
時間外学習に必要な内容・時間	第1～15回事前学習：指定の教科書を事前に読んでおく。また、1年次に学習した「人体のしくみと働き」「内部環境の調節」から該当する範囲を予習する。(各60分)体のしくみと機能を理解していると、それらがどのような異常を起こし、どのようにして疾病が成り立つかを系統的に理解することができる。 第1～15回事後学習：講義内容について教科書や資料を参考に復習する。(各60分) 講義内容を理解し関連を自分で整理すると、疾患への理解が深まり、専門科目の看護学へのつながりを理解することができる。特に脳神経系の病態生理は理解しにくいいため教科書のみでなく模型やDVD等も活用すると学習効果が期待できる。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。							
授業計画			担当予定		使用する教科書			
	第1～2回：外科治療学概論	蜂須賀	臨床外科看護総論(医学書院)					
第3～7回：骨・関節系疾患の病態と治療 (整形外科) ・姿勢保持と移動動作の障害を引き起こす病態と治療 ・作業動作に関連する病態と治療 ・加齢による主な運動機能障害と治療	奥井	成人看護学10運動器(〃)						
第8～10回：脳神経系疾患の病態と治療 ・大脳の機能障害の病態と治療 ・小脳の機能障害の病態と治療 ・脳幹部の機能障害の病態と治療 ・脳神経機能障害の病態と治療	中林	成人看護学7脳・神経(〃)						
第11回：感覚器系(皮膚)疾患の病態と治療	津田	成人看護学12皮膚(〃)						
第12回：アレルギー・自己免疫疾患の病態と治療	津田	成人看護学11アレルギー・膠原病・感染症(〃)						
第13回：感覚器系(眼)疾患の病態と治療	栗林	成人看護学13眼(〃)						
第14～15回：麻酔と医療 (ペインクリニックを含む)	野々垣	周産期看護-安全・安楽な看護の実践 (インターメディカ社)						
※状況により順番、教員、内容等が変更になる場合があります。 (掲示等案内)								
評価方法 評価基準	試験(90%)、受講態度(10%)で総合的に評価する。							
教科書	授業計画に記載			参考書等	講義の中で適宜紹介する。			
学生への助言等	講義中の飲食・携帯電話の使用・教室の出入りは禁止とする。また、講義中は私語をつつしむこと。							